

# アートコミュニケーター 「～ながラー」とは

アートを通して生まれるコミュニケーションを大切に、  
岐阜に生きる人やテーマと結びつきながら、  
美術館を拠点に人と人、人と作品、人と文化をつないでいく存在です。  
新たな価値や関係を社会にひろげていきます。  
世代や職業を問わず、どなたでも歓迎！  
～ながラーの活動を川のながれにたとえると...

## 1 応募

家や学校、職場とは違う、  
第三の場である美術館。  
さまざまな関心、  
背景をもつ多様な人々との  
出会いが源泉！

## 2 基礎ゼミ (4～7月、全7回)

対話のあるコミュニティづくりについて学ぶゼミです。  
アートコミュニケーターの活動について、  
基礎的な考え方を仲間たちと共有します。

### たとえば、こんな活動！

- ミュージアムの特性を活かした活動とは？
- 『きく力』を身につける
- 会議が変われば社会が変わる (写真④)

各チームには、  
舟をイメージして  
「～丸」などの  
愛称をつけます。

～ながラーの  
楽しい活動を  
紹介！

### ～ながラーの活動公開中！

～ながラーが《この舟のろう方式》  
で企画・制作した、オンラインで楽しめるコンテンツを公開中！  
美術館に対する思いや工夫が込められています。ぜひご覧ください！



## 3 この舟のろう方式

1つのアイデア(=舟)に3人が集まったら、  
オリジナルの活動に向けて漕ぎだそう。  
～ながラーの活動の基本は、自主的な話し合いと実践です。ミーティングと対話をかさね、美術館を舞台にしたオリジナルの企画をつくっていきます。

### たとえば、こんな「舟」

- 放送部丸  
作品鑑賞をラジオ風に届ける「～ながラジオ」YouTubeで配信！ (写真⑧)
- 音×アート丸  
作品に似合う音を手作り楽器で表現するワークショップ (写真⑥)
- 泉の小舟  
謎をめぐりながら美術館を深く知るイベントを実施 (写真⑩)
- おしゃべり・ミュージアム丸  
来館者の年齢に合わせた「おしゃべり・鑑賞会」 (写真⑨)

## 4 実践ゼミ (8月～不定期)

美術館の活動で大切なことや、  
アートと人、社会の関わり方をテーマに、  
さらに実践的な学びを深めます。  
現場での気づきをもとに、  
アートコミュニケーターの在り方を考えるゼミです。

- 多様な来館者を考える  
ミーティングを重ね、  
アートとコミュニケーションについて考えます。(写真⑩)

## 5 アートと 多様なひと・テーマを結び、 地域をうるおす

アーティストや、美術館にまつわる人、  
岐阜にゆかりのある人々と出会い、  
創造とコミュニケーションの場をつくります。  
作品や人をつなぎながら、  
社会への活動を広げていきます。

- こよみのよぶね  
地域アートプロジェクトに参加し、  
その歴史と現在を学ぶ (写真⑩)
- 美術館との連携事業  
連携事業や自主企画を重ねます (写真⑩)

## 6 美術館から、 それぞれの 活動へ出港！

～ながラーの任期は3年間。社会という広い海で、それぞれの創造力を発揮していきます。

### 館長のメッセージ

自分のペースでちゃんと関係性をしりながら、  
自分のこととして引き受けながら、相手のことを考えながら。

コミュニケーションというのは当然一人ではできない。  
相手があること。二人の間で「はがら」が生まれる。

一人よがりにはならず、  
もう一つの存在と、対話しながら、関係性をしりながら。

岐阜県美術館長 日比野 克彦



# 岐阜ではじまるアートコミュニケーション、 あなたもやってみませんか？



①基礎ゼミ

②この舟のろう方式 (～ながラジオ)

③この舟のろう方式 (感じたことを音にしよう)

④この舟のろう方式 (ミュージアム探検をしよう)

⑤この舟のろう方式 (おしゃべり・鑑賞会)

⑥アートコミュニケーションで地域をうるおす

⑦こよみのよぶね

⑧美術館との連携事業

### ③ 課題

「アートコミュニケーターに応募する動機と、その背景になっているあなたにとって重要な体験について」述べてください。美術館での体験でも、美術館での体験でなくても構いません。

[書式] A4用紙片面1枚にまとめてください。この紙を使っても、ご自身で用意した用紙を使用してもかまいませんが、必ず氏名を記入してください。記載様式は自由ですが、A4規格外の用紙使用や、裏面への記載は選考対象となりませんのでご注意ください。

氏名 \_\_\_\_\_